

# 平成30年度 学校評価のまとめ

【評価と評価点】 A：そう思う(4点) B：だいたいそう思う(3点) C：あまりそう思わない(2点) D：そう思わない(1点)  
 A：3.25以上 B：2.5以上～3.25未満 C：1.75以上～2.5未満 D：1.75未満 (自己評価の総合評価は3観点の観点別評点の平均で行っています。)

北塩原村立さくら小学校

項	No.	評価事項	分類No.	評価の具体的観点	自己評価		外部アンケート		学校関係者評価	具体的成果(○)・課題(●)・改善策等(※)		学校関係者評価の自由記述
					観点別	総合	保護者	児童		自己評価の自由記述	学校関係者評価の自由記述	
運営全般	1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、組織的に運営し取り組んでいる。	1-1	「報告・連携・相談」の原則	B	A	A	A	A	○「報告・連絡・相談」をきちんと行うことによる一貫性のある指導 ●組織的な取り組みの充実(2) ●「報告・連絡・相談」の徹底(2)	・H16から見守り隊、H24から評議員として関わり、学校内外で見て参りました。その感想は、年々成果は上がっており、学校の取り組みは総てAです。その取り組みに対して、各家庭が応えているかは少々疑問点がありますが、学校側の努力と継続により、近々家庭側もAに到達すると思います。 ・お疲れ様です。校長先生のリーダーシップのもと、日々すばらしい教育実践をなされていることに深く敬意を表します。	
			1-2	組織を生かした協働体制	B							
			1-3	校務分掌の積極的推進	A							
	2	学校は、体験的な活動を取り入れ、道徳教育の充実を図っている。	2-1	体験的活動の導入(学年)	A	B	A	A	A	○自然体験学習の充実 ○道徳の授業の充実 ●道徳の授業の充実 ※道徳の授業での考える時間の意図的設定	・自然体験等は保護者も参加できるような機会もつくってほしい。 ・道徳の特別教科化により、よりよく生きるための課題解決の力を養っていくのが真のねらいのはずなので、考える時間の意図的設定は重要です。	
2-2	学校全体で取り組む道徳教育	B										
2-3	道徳の授業の充実	B										
3	学校の教育内容は、学校行事や参観日を通して、保護者や地域に伝わっている。	3-1	運動会・文化祭の推進	A	A	A	A	A	○祖父母参観、フリー参観、文化祭等、行事の充実(3) ○村との合同行事による地域とのふれあいの充実	・文化祭や運動会では大変お世話になりました。学校や地域、保護者の方々の連携が取れ、スムーズな事業運営を行えました。 ・文化祭での各クラスのクオリティーの高い学習発表や個性あふれる作品がとてますばらしく感心しました。PTA会報からも地域に伝わっていると思います。		
		3-2	保護者・祖父母参観の工夫	A								
		3-3	各種「お知らせ」の配付	A								
4	学校は、学校・学級により、ホームページ等で情報を提供している。	4-1	学校により・HPによる提供	A	A	A	A	A	○学校、学級だよりの充実(2) ○連絡帳を通しての保護者との情報共有 ●連絡の遅れ ※持ち物等、早めの連絡	・メール等で情報を早めに提供してほしい。(学年行事等で宿泊した場合など情報があると有り難い。) ・各学級ごとのたよりは大変すばらしいと思う。・学校だよりがタイムリーで簡潔にまとめてあり、とてもわかりやすく毎回楽しみに拝見しています。教育活動が手にとるようにわかります。 ・学校からのお知らせメールは情報を伝える良いツールなので行事の連絡や持ち物の確認にも利用できます。		
		4-2	学級により等による提供	A								
		4-3	連絡帳等、双方向の情報交換	A								
思いやる子ども	5	児童は、あいさつやくつそろえ等、基本的な生活習慣が身につけている。	5-1	心のこもったあいさつの励行	A	A	B	A	A	○元気なあいさつ(2) ●ノーチャイムでの授業時間の厳守 ●トイレのスリッパ並べ	・もう少し元気あるあいさつを望みます。	
			5-2	くつそろえの励行	B							
			5-3	ノーチャイムによる時間厳守	B							
	6	児童は、いじめや意地悪をすることなく、まわりへの思いやりをもち、楽しく元気に過ごしている。	6-1	学級における人間関係	B	A	A	A	A	○互いのよさを認め合う場の設定 ○縦割り班でのイベントによるまとめ(2) ○友達や下級生に対する思いやりの気持ち ●友達への心ない言葉が聞かれる。 ※機会を逃さず指導		
			6-2	登校班における人間関係	A							
			6-3	縦割り班による活動	A							
	7	教職員は、児童のよさや課題をよく理解し、児童や保護者との教育相談にあたっている。	7-1	児童との個別相談の推進	A	A	A	A	A	○教育相談による悩みの把握と学級経営の充実 ○個別相談・保護者との連携による児童観トランプの解決 ●情報の共有化		
			7-2	保護者との教育相談の推進	A							
			7-3	情報の共有化と協働体制	B							
8	教職員は、自ら手本となるなど、児童に対して規範意識を高める指導をしている。	8-1	学級(道徳、学活)での指導	A	A	A	A	A	○学校の応援団との連携アップ	・学校の応援団では、日頃よりご理解とご協力ありがとうございます。地域と学校との連携を強化し、よりよい事業を目指したいと考えています。		
		8-2	学校行事等での指導	A								
		8-3	外部講師等からの指導	B								
9	児童は、落ち着いた環境の中で、学習内容を理解しようとしている。	9-1	聞き合える学習集団の確立	A	A	A	A	A	○粘り強い指導による聞く姿勢の定着 ○見通しを持って学習する児童の増加 ○聞き合える学級集団づくりの実践 ○現職教育との関連による授業の充実 ●話し合いの工夫 ※班活動の設定などの工夫	・授業参観から授業に熱心に取り組む児童の姿がいつも見られます。良い環境の中であることに好感を持っています。		
		9-2	話し合い活動の工夫	A								
		9-3	繰り返しの指導による定着	A								
10	児童は、さくらタイムや自主学習ノートに自主的・意欲的に取り組んでいる。	10-1	さくらタイムの取り組み	A	A	B	A	A	○図書委員会の活動やブックウォーク、さくらタイムによる読書の習慣化(3) ○ノートの掲示や指導による自主学習の充実(3) ●さくらタイムの内容の充実 ※さくらタイムの計画的な実施			
		10-2	読書活動の推進	A								
		10-3	自主学習ノートの充実	A								
11	教職員は、一人ひとりの状況を的確に把握し、わかりやすく工夫した授業をしている。	11-1	NR T等調査結果の分析	A	A	A	A	A	○個に応じた指導による学力の向上 ○学力調査の分析と個に応じた学習支援 ●授業における個に応じた指導の工夫(3)	・先生方の一生懸命さが、授業を拝見して伝わってきます。工夫した授業をされています。		
		11-2	個に応じた学習支援の工夫	B								
		11-3	現職教育、外部研修の充実	A								
12	教職員は、学ぶ環境や学ぶ姿勢、学習ルールに関し、定着するようくり返し指導している。	12-1	教室環境の整備	A	A	A	A	A	○既習事項の掲示による学習内容の定着			
		12-2	忘れ物に関する継続的な指導	A								
		12-3	学習ルールの定着	A								
13	児童は、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身につけている。	13-1	実態把握と学級での啓発	B	-B	B	A	B	○養護教諭・栄養士とのTTによる指導 ○朝ご飯摂取率100% ●家庭の事情等による生活の乱れ(高学年の就寝時間の遅れ)(2) ※家庭との連絡を密にし、啓蒙を図る。	・朝食についてのアンケートを取り調査する必要があると思う。 ・朝ご飯100%はとても良いですね。・家庭教育改善の必要性を伝える。(遅く寝る子どもが点数が低くなるなど)		
		13-2	個々の課題への対応	B								
		13-3	保護者との連携強化	B								
14	児童は、体力の向上を目指し、体育や休み時間等、意欲的に運動に取り組んでいる。	14-1	実態把握と個に応じた推進	A	A	A	A	A	○朝の体力作り、体育授業、陸上指導の充実 ○全校生での運動する機会の設定 ○体づくり運動の実施による体力づくり ○外遊びの奨励による運動の日常化(2) ○マラソンカードの活用 ●体育の授業での運動量確保の工夫	・登校後、元気に校庭を走る多くの児童の姿が見られ、良い朝の取り組みで1校時目から積極的に授業に臨めるのではないかと思います。		
		14-2	体育の授業での推進	A								
		14-3	休み時間の活用推進	A								
15	学校は、運動会やマラソン大会等とおして、体力の向上に対する指導を行っている。	15-1	体力テストの分析	A	A	A	A	A	○目標設定による体力作りへの意欲づけ(2) ○マラソン記録会に向けての指導の充実 ●運動の楽しさを体力作りにつなげる指導の工夫			
		15-2	行事に向けての働きかけ	A								
		15-3	個々の課題への対応	B								
16	学校は、保健だよりや給食だより等とおして、健康や食生活の改善に関する啓発をしている。	16-1	保健だよりの活用	A	A	A	A	A	○すこやか教室による改善意識の高揚(5)			
		16-2	給食だよりの活用	A								
		16-3	個に応じた継続的な指導	A								
17	学校は、地域の特色や地域の力を生かした教育活動をしている。	17-1	積極的に地域を学ぶ姿勢	A	A	A	A	A	○校外学習や自然体験学習による村のよさへの気付き ○地域学習の機会の設定と地域の協力 ○学校の応援団の積極的活用	・地域ぐるみで学校教育のサポートとなるように、事業の精査と見直しを図っていきたく思います。		
		17-2	地域学習の積極的な導入	A								
		17-3	地域の教育力の活用	A								
18	学校は、村青少年健全育成村民会議事業を推進し、家庭や地域と連携・協力している。	18-1	方針・趣旨の理解	B	A	A	A	A	○ノーメディアデーの推進(達成率97%)(2) ●海山ツアーでのインストラクターによるスキー指導	・兄や姉のいる園児の家庭では、特にノーメディアデーが推進され、定着が図られているのがわかります。		
		18-2	ノーメディアデーへの取り組み	A								
		18-3	公民館行事への協力	A								
19	学校は、小1プロブレムや中1ギャップ解消のため、幼稚園や中学校と有効な連携を図っている。	19-1	幼稚園との連携強化	B	B	A	A	A	○幼小中連携での互いの様子の把握による教育活動の充実	・幼小連携においては、充実した取り組みを実施しているが、大きな行事以外の連携活動は保護者や特に連携していないクラスの先生方までの理解には至っていないと感じている。 ・一中の文化祭に子どもたちが来ていたが、できるだけ多くの小学生に見に来てもらいたいと思いました。		
		19-2	中学校との連携強化	B								
		19-3	幼小中連携推進事業への取組	A								
20	学校は、保護者や地域と連携して、交通事故防止等の完全対策を推進している。	20-1	日常的な指導の継続	A	A	A	A	A	○危険箇所の速やかな確認・対応	・頻繁な校長先生の校舎周辺の見守りや毎日の見守り隊の徹底した協力体制により、安全確保の充実が図られていると感じています。		
		20-2	事故防止への取り組み	A								
		20-3	各種訓練の充実	A								